

お知らせ

令和4年3月14日
国土交通省北海道開発局
旭川開発建設部

一般国道237号 湯の沢橋 技術検討会(概要)

旭川開発建設部では、架橋後59年が経過した湯の沢橋において、橋梁上部工の損傷について有識者による検討会を開催し、課題の解消に向けた対策(案)について議論しました。議論の結果、主な結論として以下のとおり取りまとめました。

- 湯の沢橋は、中性化と凍害の影響により著しい損傷が発生し、橋梁上部工の耐力不足が生じており、早急な対策が必要。
- 対策案については、補修・補強工法の検討結果を踏まえ、架け替えが妥当。

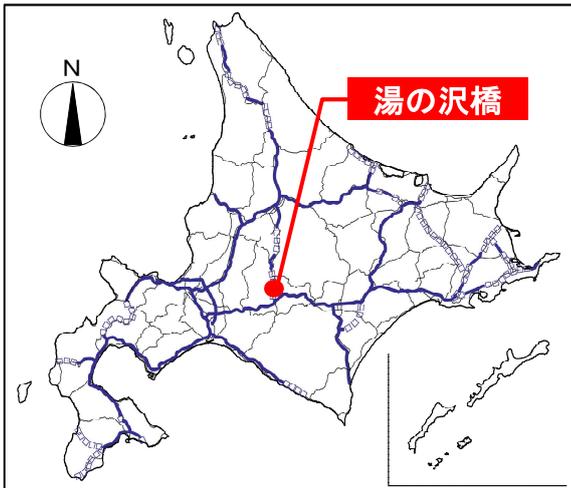
□開催日:令和4年3月11日(金)

□有識者:宮森 保紀(北見工業大学 社会環境工学科 准教授)

西 弘明(寒地土木研究所 寒地基礎技術研究グループ グループ長)

島多 昭典(寒地土木研究所 寒地保全技術研究グループ 耐寒材料チーム 上席研究員)

位置図



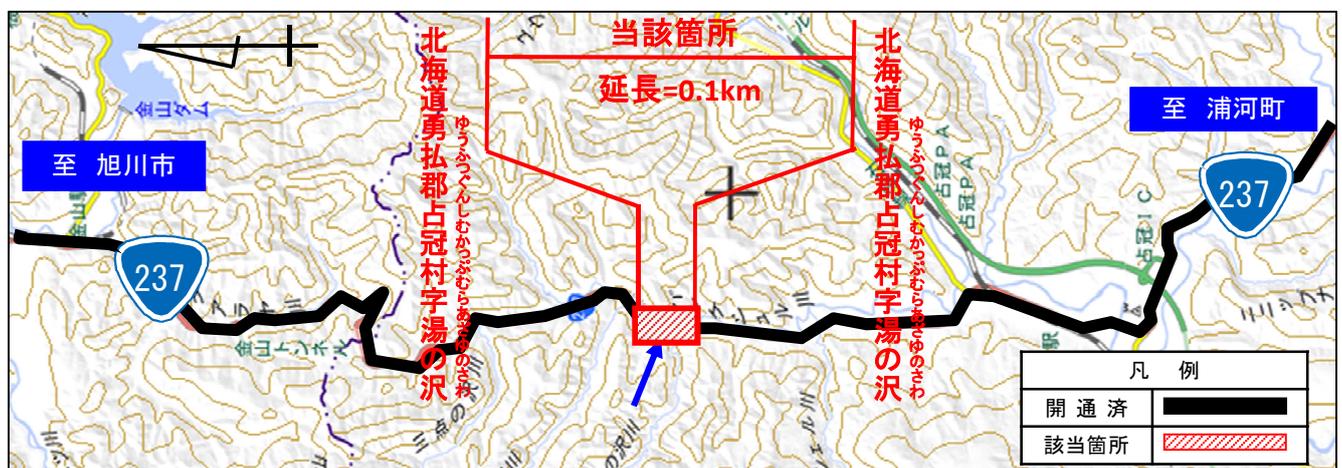
現橋の湯の沢橋の状況(全景)



現橋の主な損傷状況



平面図



■問い合わせ先 国土交通省 北海道開発局 旭川開発建設部
道路計画課 課長 長内 正宏、道路調査官 大西 功基 (電話番号:0166-32-4285)